

スケジュール一覧表

大阪大学医学部医学科 5 年生 (2012 年度)

K.H (Male)

<1月2日(水)>

10:55 関西国際空港出発

15:00 頃 フランクフルト空港(ドイツ)着

<1月6日(日)>

午前: グローニンゲン(オランダ)到着

午後: グローニンゲンの留学生寮着、寮のオリエンテーション

<1月7日(月)>

留学生担当のスタッフと面談(UMCGのオリエンテーション・持参書類のチェック)、感染症チェック(問診・MRSA検査)、病院の案内

<1月8日(火)>

グローニンゲンの警察に滞在届を提出に行く

<1月9日(水)>

MRSA 検査結果待ち

<1月10日(木)>

MRSA 検査結果待ち

<1月11日(金)>

MRSA 検査結果待ち

<1月14日(月)>

MRSA 検査が陰性だったため泌尿器科医局へ行きオリエンテーション(スケジュールの確認、注意事項の確認、手術室・内視鏡室・病棟の案内)

<1月15日(火)>

7:30 カンファレンス

8:30 頃より手術室にて手術見学

- epididymal spermatozoa aspiration
- exploration penis via circumcision as Nesbit
- adhesiolysis
- palomo
- right inguinal hemicastration

<1月16日(水)>

7:30 カンファレンス

8:30 頃より内視鏡室にて処置見学

- ・ cystoscopy を 5 件 (TUR やケモの術後ケア)
- ・ ESWL
- ・ Cystoscopy(前立腺肥大)

<1月17日(木)>

7:30 カンファレンス

8:30 頃より手術室にて手術見学

- ・ hypospadias correction を 2 件
- ・ botox injection into the bladder

<1月18日(金)>

7:30 カンファレンス

8:30 頃より内視鏡室にて処置見学

- ・ prostate biopsy を 5 件
- ・ uroflowmetry
- ・ voiding cystourethrography
- ・ catheter exchange
- ・ 電話診察

<1月21日(月)>

7:30 カンファレンス

8:30 頃より内視鏡室にて処置見学

- ・ HoLEP+hexvix
- ・ TUR+biopsy
- ・ hexvix+biopsy
- ・ re-TURB

<1月22日(火)>

7:30 カンファレンス

8:30 頃より手術室にて手術見学

- ・ cystoscopy+catheter insertion for VUDO
- ・ ureter and bladder augmentation+bladder neck catheter+Penn pouch

<1月23日(水)>

7:30 カンファレンス

8:30 頃より手術室にて手術見学

- particle penectomy+lymph node dissection
- perineostomy
- PLND (laparotomy)
- PLND (laparoscopy)

<1月24日(木)>

7:30 カンファレンス

8:30 頃より内視鏡室にて処置見学

- TURP
- HoLEP
- TURB+RPG

<1月25日(金)>

7:30 カンファレンス

8:30 頃より手術室にて手術見学

- urethroplasty
- re-orchidopexis

<1月28日(月)>

7:30 カンファレンス

8:30 頃より手術室にて手術見学

- EERP
- particle nephrectomy

<1月29日(火)>

7:30 カンファレンス

8:30 頃より手術室にて手術見学

- Nesbit
- unloading scrotal testisprosthesis
- left orchiopey to scrotal
- orchiopey for orchidectomy+prosthesis
- bringing in right testisprosthesis

<1月30日(水)>

7:30 カンファレンス

8:30 頃より day surgery center にて手術見学

- cystoscopy+resectoscope+circumcision
- cystoscopy+TUR-valve
- cystoscopy+deflexR
- botox injection into the bladder
- frenectomy+calibration meatus

実習終了後、先生方にお礼とお別れの挨拶に行く。

<1月31日(木)>

午前：学生寮で出発の準備（荷物の整理・書類の記入等）

午後：グローニンゲン出発

<2月2日(土)>

13:40 フランクフルト国際空港出発

<2月3日(日)>

9:00 頃 関西国際空港着

<目的>

- ・実際にオランダに赴き現地の医療に接する中で、自分の五感でオランダの医療を体験し、オランダの医療（技術・設備・教育・制度・政策・哲学・長所・問題点等）についての理解を深め、我が国が抱える医療の課題について考える。
- ・毎朝の英語でのカンファレンスや現地の先生方とのコミュニケーションを通して自分の語学力を高める。

<内容>

- ・1日の大まかなスケジュール

7:30-8:00 頃

カンファレンス（英語）

8:30-16:00 頃

毎朝、以下の①-④の中から自分が参加したいものを選び担当の先生に伝え、その日一日を先生について過ごして見学させていただく（ただし③④は患者さんとのオランダ語での会話がメインとなるため、オランダ語が理解できない私は実習期間中①②のみに参加）

- ①手術室（または day surgery センター）での手術見学（スタッフの邪魔にならない時は清潔野に入ってより近くで見学させてもらおうと同時に手術を手伝う）
- ②内視鏡室での処置見学
- ③病棟での処置見学
- ④外来見学

<成果>

実習を通して、現地の先生方・学生と接する中で得られたことを以下にまとめる。

技術

4年生の授業で習ったことがオランダでも普通に行われていた。また習っていないことでも、その日実習で見学したことをインターネットで検索すると日本の病院でも同様の治療が行われていた。

設備

UMCG は阪大病院と同じぐらいの時期に建設されたらしいが、病院自体に関しては明らかに UMCG の方が美しく、高級ホテルにいるような気分だった。治療設備に関しては日本の病院で見かけるものと同じようなものがたくさん並んでいた。

教育

4・5 年生が日本と同じような臨床実習を行っていた。ただオランダでは国家試験がなく 6 年生は自分が選んだ診療科で研修医のような仕事をこなしながら研究を行いその卒業論文を提出して修了するということだった。またオランダ語も英語と同様敬語・謙譲語のようなものは存在しないためなのかそういう文化なのかかわからないが、先生方と学生が非常にフランクかつ対等に会話しているように見えた。

制度

オランダでは国民すべてに **family doctor** がついており、患者はいつも診てもらっている彼らの紹介に従って UMCG 等の大病院に送られてくる。大病院の医師は患者とともに送られてくる **family doctor** が普段行っている治療に関する書類を参考にしながら治療方針を決めていく。

手術・処置

- ・手洗いは洗うことそのものよりも洗った後の消毒液のすりこみに非常に重点を置いていた。
- ・手術中に着るガウンや清潔野の下に引く青いシートは、オートクレーブして再利用する。
- ・5 時間を超えるような長時間の手術では、きりのよいところを見つけて麻酔科以外は 10-15 分くらいコーヒブレイクをとっていた。
- ・手術室にも内視鏡室にも近くに必ずコーヒブレイクルームがあり、スタッフはちょっとしたスキマ時間ができるとその部屋で休憩していた。またこれもオランダ語に敬語・謙譲語のようなものは存在しないためなのかそういう文化なのかかわからないが、先生方と看護師が日本よりフランクかつ対等に会話しているように見えた。
- ・以上のような仕事の進め方のせいか、オランダの外科医は「外科医は体力勝負！」という日本の外科医のイメージではないため、女子学生も含めて学生の間での人気が高い。実際泌尿器科の 4 割ぐらいは女医さんだった。

<今後の抱負>

実習を通して、日本とオランダでは医療技術は同等レベルでオランダだから学べる医療技術というものは特になく感じましたが、仕事の進め方・考え方に関しては大きな違いを感じ、日本も参考にできることはたくさんあるように感じた。例えばオランダでの手術の場面で、先に述べた手洗いの仕方や長時間手術のコーヒープレイクは別に手を抜いて適当にやっているのではなく、全体としてどうすることが効率的かつ効果的なのかをシビアに追求するプロテストマンティズムの考え方の結果なのだと感じた。手洗いに関しては日本の外科の先生方も「手洗いは消毒液のすり込みが重要だというエビデンスがある」とおっしゃっていたし、長時間手術のコーヒープレイクに関しても、教授は「10分のコーヒープレイクで患者の麻酔が10分伸びるデメリットよりも休憩をとって回復して後半集中力が回復するメリットの方がはるかに大きい」とおっしゃっていた。自分も含めて日本人は根性論・感情論でなんでもかんでもがんばりすぎてしまう傾向があると思うので、抜くところは抜いて締めるところは締める合理的なオランダの考え方は新鮮に感じた。

語学に関しては、実習の最初の頃は朝のカンファもほとんど理解できなかったが、毎晩実習後に寮で泌尿器科の専門用語を覚えると同時に、実習で泌尿器科の一般的な治療の進め方を覚えていくにつれて最終的には8割ぐらいは理解できるようになった。外国語の理解は、耳だけでなく次にどのような内容が話されるのかをある程度知っていることが重要で、自分の専門分野の知識・専門用語を身につけていくことが何よりも大切なのだとすることを肌で再認識させられた。